

高津区おはなしアーカイブ

●高橋 信一（たかはし しんいち）さん

昭和5年生まれ 87歳
川崎市高津区坂戸在住



◆7人兄弟の長男に生まれる

私はここで、男3人、女4人の一番上、農家の長男に生まれました。父と母、おじいさん、おばあさんもいて11人のにぎやかな家族でした。

一番下の妹（四女）とは15歳くらい違いますから、いっしょに遊んだのは、私の下の子、次女までで、その下の次男、三男はおぶってよく子守りをしました。でも子どもですからね、遊ぶ時は邪魔でしょうがなかったんです。かくれんぼの時はおんぶしていると声を出しちゃって、かくれんぼにならないんですよ。だから柿の木に縛ったりして…。弟や妹たちに「あんちゃんに、よく柿の木に縛りつけられた」って言われるんですね。

◆溝の口駅まで野原が広がる

戦前、ミットヨが来る前はこの辺りは田んぼがずっと広がっていました。

軍需工場を建てるために田んぼを埋め立て整地したところにも草が生え、野球等をしてよく遊びました。

昭和15年頃まではこのあたりは農家3軒でした。

◆小学校は、松・竹・梅・桜組

小学校は高津小学校に通いました。坂戸は、「上（かみ）・中（なか）・下（しも）」にわかれていて、私のところは上（かみ）で、学校には近い方で、歩いて20分くらいだったと思います。

朝、下（しも）の子たちが早くうちに来て、庭で一緒に遊んでから学校に行った日もありましたよ。

1クラス50～60人はいたんじゃないでしょうか。戦争が始まり軍需工場ができ始めると、引越してくる家族もいて生徒数はどんどん増えていきました。4年生になると教室が足りなくて早番、遅番の2部制になりました。

1学年4クラスで、2年生までは竹組と松組は男子だけ、梅組と桜組は女子だけのクラスでした。3年生からは1組、2組とクラスは番号になりました。

当時は日本だけの年号の呼び方、「皇紀」があって、3年生ぐらいの時に皇紀2600年のお祝いがあって、溝口神社の辺りまで団体行進したことを覚えています。あと、満州国の偉い人が来たことがあったんですが、その時にその国の国歌を覚えさせられて偉い人を歓迎した記憶もありますね。

◆小学生の頃の遊び

小学3年生の頃によく男の子は兵隊ごっこをして遊びました。大将は帽子のひさしを前、水兵（すいらい）はひさしを後ろ、あと呼び名を忘れましたが、ひさしを横にした3つの身分に分かれて戦う遊びでした。女の子と一緒に遊ぶことはなく、女の子がどんな遊びをしていたかは全くわかりません。学校には洋服を着ていきましたが、わずかでしたが着物の子もいましたね。

◆夜行列車の修学旅行

昭和16年、6年生の時に修学旅行で京都・奈良・伊勢に行きました。前の代も後の代も行くことができなかったのですが、私たちの代は行くことができました。夜の9時半くらいに横浜駅に集合して、専用の夜行列車に乗って、京都、奈良に行き、最後に伊勢神宮にお参りし、夜行列車で帰ってきました。3泊くらいだったと思います。

私は副級長で、いつもみんな揃っているか人数調べをしなくてはいけなくて大変でした。夜はなかなか寝られずみんなで騒いでいたこと、友達が奈良で背中を鹿にさされて怪我をしたことをよく覚えています。当時は鹿せんべいのような食べ物を売っていなかったもので、多分鹿に食べ物を見られたのでやられてしまったんだと思います。

◆中学校は法政へ

中学校は受験して、武蔵小杉の法政へ進みました。6年生になって急に親に受験するように言われ、夏休みから急に受験勉強を始めたんです。高津小学校から法政に行ったのは2人でした。

次男は工業、三男は商業の学校に進みましたが、これには親なりの考えがあったようです。

戦火が激しくなり、法政は当時、木造校舎だったため空襲で燃えてしまったんです。勤労働員が始まり最初に行ったのは「住友化学」の上工場で現在の日本電気だったのですが、木造で燃えてしまい、次は二宮の農家へ手伝いに行きました。中学3年生の時ですね。その後は陣地構築で茅ヶ崎まで行きました。山の間を軍人が掘って、その土をひたすら運ぶ仕事で、小出小学校の教室に寝泊まりし、住み込み状態で働きました。毛布1枚だけですごく寒く、食べ物は軍隊の残りで、ごはんとみそ汁が本当に少なくてお腹がすいて困りましたね。中学には5年通って卒業式を迎えましたが、横浜の空襲などもありましたし、入学時250人くらいいた同級生が卒業式の時には50人くらいになっていました。

◆戦争中、父は馬で運送業

おじいさんは農業をしていましたが、軍需工場ができて畑の面積が少なくなったこともあり、戦争中、父は馬をひいて軍需工場の部品を運ぶ運送業をしていま

した。ガソリンがなかったから馬だったんです。馬だけでなく、牛をひく人たちもいました。新城の駅前に中島飛行機の部品を作る工場があり、その部品をよく運んでいました。

一番遠くは横須賀辺りまで行っていたようです。当時はおおまかな地図で探しながら行くので、時間がどのくらいかかるかもよくわからないので、もしもの場合を考えて、持っていったお弁当は馬に食べさせ自分は我慢していたこともあったそうです。

確か夜の11時頃だったと思いますけど、父の帰りが遅く、心配になって父の妹にあたる叔母さんと一緒に新城の工場まで迎えに行ったことを覚えています。終戦と同時に父は運送業はやめ、農業に戻りました。

◆防空壕に入ると蒸される

今、イトーヨーカドーがあるあたりに爆弾が落ちたことがありますが、その時は本当にびっくりしました。防空壕もありましたが、「防空壕に入ると蒸される」と言われて私は外にいた記憶があります。農家なので食べ物には困りませんでした。

中学3年生の夏、終戦になりました。お盆で親戚の人が来ていて、一緒に玉音放送を聞きましたけど、意味はよくわからなかったです。でも終戦前から学校で「日本はもう負ける」といった話を大きい声では言えないけど聞いていました。担任が物理の先生で、私も物理が好きだったので核分裂の話なども聞いていまし

たが、爆弾を作ろうにも物資がなかったですからね。私も日本電気で働いている時に一度物資を埼玉まで取りに行ったけれど、物資がなく、空っぽのトラックで東京の焼け野原を通り帰ってきたことを覚えています。

◆電球は交換制

戦争が終わってほっとしました。だって夜、電気をつけていいんだものね。空襲警報がくると電球の笠に黒い布をかけていました。

電球が切れると東京電力に持って行って交換する仕組みでした。当時はメーターでなく、20ワットの電球何個というように管理されていたかもしれません。40ワットが最大だったと思います。東京電力は、今の高津駅近くの川崎信用金庫の隣辺りにありました。名前は、東京電力ではなく、確か関東配電だったと思います。

◆ご成婚の日に結婚

お祭りはこの辺りは、坂戸御嶽神社です。青年男・女で素人芝居等をして楽しかったです。

盆踊りも楽しみで、一番楽しかったのは三波春夫の「東京五輪音頭」ですね。テレビは工業系の学校に進学した弟が自分で作っていたので、ご成婚の前から見ました。

私、実はご成婚の日に結婚したんですよ。

◆卒業後は農家に

卒業後は農家一本です。お袋が亡くなり、当時は機械がないのでとにかく人手が必要でした。田んぼと畑、両方やっていました。坂戸住宅あたりにあった田んぼは、土を盛って軍需工場を建てようとしていました。でも、工場ができる前に終戦になり、農地として耕作しました。池が1町歩くらいあって、そこを東急が買い上げ土盛して、住宅地として分譲しました。

田んぼは50アールくらいで、平成3年まで5アールくらいの田んぼで米を作っていて、残りの土地では花菖蒲を植え、菖蒲園を開きました。とれたお米は農協に出していました。今は、田んぼは畑になって、野菜やいちじくを栽培しています。

畑にいると気持ちがいいですね。



現在は、セレスアモス宮前店と自家直売所で売っています。セレスアモスができるまでは、北部市場や世田谷の瀬田市場に出していました。宮内のところにも小さいけど市場はありましたね。

◆農家だけで大山詣り（大山講）

農家を主として大山詣りはずっと続いていました。毎年7月14日は「上げもり」と言ってみんな寄るんです。そこで翌年の責任者と手伝いを決め、8月1日に参拝の行程等の話し合いをします。昔は、何年かに1回は1泊で参拝しました。今はほとんど行かなくなりましたけどね。

大山の周りにはいろいろ遊ぶところもあって、昔は娯楽も少なかったから楽しみでした。

灯籠があって、坂戸公民館の脇に毎年立て、8月17日は下げもりといって、この灯籠を下げます。

◆子どもが藁を集め稲荷講（坂戸上組）

稲荷講もあります。初午に集まってお詣りして、お焚き上げをします。お昼には直会って言うのでしょうか、昔は1軒1軒持ち回りだったんですが、今はこの辺りはマンションにある集会室でやっています（平成29年で解散）。

お稲荷さんなので御利益は「商売繁盛」です。昔はお焚き上げをする藁を集めるのは子どもの仕事でした。前の晩から藁を集め、おみき銭をもらえたんですよ。

これと同じようなことで、「歳之神」（「どんど焼き」）がありました。坂戸の上（かみ）・中（なか）・下（しも）でやっていました。これも1月13日に小学生が藁や竹等を集めて、1月14日の朝に燃やしていました。煤竹で煤払いもしていました。上（かみ）でやっていたの

は戦争前までで、戦後は燃やすところがなくなってやっています。場所は、今のミットヨの正門の辺りでした。中（なか）はマルエツの辺り、下（しも）は第三京浜道路坂戸信号近くで昭和27年頃までやっていました。

◆今も続く地神講（じしんこう）

土の神様の祭礼で今でもやっています。以前は農民の集まりでした。

3月と9月のお彼岸の頃の社日（しゃにち）という日に地神さまの掛け軸をかけてみんなで集まります。3月の地神講では決算報告をしてきましたが、今は4月切り替えが多いので、9月の地神講で決算報告をしています。地神講の時は「土をいじってはいけない」という決まりがあります。今思うと、こうしないと農作業が休めなかったからだと思います。今は、土日が休みとかありますが、昔は1年中休みなく働き、こんな時でないと休みが許可されなかったんじゃないかなあ。大山詣りも同じだと思います。

他に田んぼや畑に雹が降らないように祈る「雹祭り」もありました。神主さんが来て雹の被害がないよう祈りましたが、平成の初めに終わったと思います。

（平成29年11月20日取材）